

No. 1334

遺品は語る

— 烈日サイパン展 —

太平洋戦争末期の昭和19年夏、日本軍将兵、在留邦人約5万人が玉砕したといわれるサイパン島。島の奥深い山中にはいまなお多くの遺骨や遺品が放置されているという。これらの遺品を収集した「烈日サイパン展」が8月2日から一週間、東京日本橋の東急百貨店で開れた。この展示会は34回目の終戦記念日を前に多くの人々に平和への願いを新たにしてもらおうと遺品を一点でも多く遺族のもとに返す機会を作るのが目的。展示された遺品は東京天照山印相寺がこの10年間に収集したもの。軍刀や銃、弾痕の残る鉄かぶとや水筒、これらの遺品の数々が激しかった戦いのあとをまざまざとしのばせる。遺族の人たちが次々に訪れ、くいいるように見入っていた。

中日、首位守る

混戦が続くセ・リーグでわずかに抜け出し、依然首位を行く中日ドラゴンズ。8月3日、ナゴヤ球場では、注目の中日対巨人の試合が行なわれました。巨人は一回の表、柳田が藤沢の立ちあがりを攻め、2点ホームラン。早くもリードを奪います。その裏中日も1点を返し、2対1のまま。6回の裏中日の猛攻がはじまります。ギャレット中前ヒット、宇野四球、藤沢内野安打、高木二塁打、藤波内野安打、井上右前ヒット、大島右前ヒット、木俣左前ヒットと巨人のくり出す投手をめった打ち、6点をあげ7対2と逆点。しかし巨人もやや気のゆるんだ藤沢を攻め、山本の3点ホームランなどで5点、試合は振り出しにもどりました。最終回巨人が王の二塁打で2点を追加すれば中日も新浦から伊藤が三塁打して2点。結局9対9で引き分け。続く試合は中日が5対4で勝ち。中日はガッチリと首位を守りました。